

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【泰平中学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策	
知識・技能	<p>学びのポイント「じ・しゃ・く」、特に自分で課題や目標、取組を決めること、施行・思考することに全教科で、教科横断的に取り組んだ。無回答が減るとともに、他者の意見も参考にしながら自分のペースで学習に取り組む生徒が増えた。自由進度学習に取り組む教科もあられ、「個に応じた指導」の実践が進んだ結果、全国学力・学習状況調査、およびさいたま市学習状況調査における「知識・技能」の観点では、市平均を上回った。しかし今年度は、比較的国語と数学において知識・技能の正答率が低い結果となった。変化の割合や座標、空間図形など「読み取る」問題に積極的に取り組む。</p>	
思考・判断・表現	<p>表現分野における平均正答率は比較的高かった。一方、3学期に実施したさいたま市学習状況調査では、「思考・判断」の部分で課題が見られた。他者の意見を参考に、自分の意見を組み立てられるようになってきているが、自分の力で深く思考し、判断することに課題がみられた。今後もグラフや表から読み取り、思考・判断する問題に多く取り組む、また資料から正しく引用したりまとめるなど、授業内で「自ら考える機会」を多く与えられるよう促す。</p>	

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<p><学習上の課題> 証明問題や、特徴を説明する問題等において差異が見られ、文の構造理解や特定の状況や文脈で使われる言葉などに課題がみられる。 <指導上の課題> 前後の学習を繋げる時間、及び習得した知識・技能を活用する時間の確保。</p>	<p>⇒ ICTを活用し、自分の考えが伝わるように話す内容との整合に注意しながら資料等を活用させるような共同的な学習を行う。また、学びのポイント「じ・しゃ・く」の観点や他教科との教科横断的な学びを意識し、より生徒一人ひとりにとっての主体的・対話的で深い学びを目指し、「真の学力」を育む。【R7年度さいたま市学習状況調査「タブレットを活用して情報を集めて整理したり、分析したり、まとめる学習をすることができましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が85%以上】</p>
思考・判断・表現	<p><学習上の課題> 自分の考えや理解を言語活動を通してわかりやすく伝える説明などに課題がみられる。 <指導上の課題> 生徒が自分で出した答えを根拠をもって説明をしたり、思考を可視化する場面の設定。</p>	<p>⇒ 授業中においてICTを活用した共同編集、話し合い、ディスカッションを行う場面を意図的に設定し、協働的な学びをさらに追求していく。【R7年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が85%以上】</p>

⑤	評価(※)	調査結果	学力向上策の実施状況
知識・技能	A	<p>全校を挙げてICTを活用しながら、学びのポイント「じ・しゃ・く」に取り組んだ。学習課題や目標、達成手段を生徒本人が決め、試行・思考し、実践することを教科横断的に繰り返し行った。「真の学力」を育むため、生徒一人ひとりにとっての主体的・対話的で深い学びを目指した。今年度の目標は【R7年度さいたま市学習状況調査「タブレットを活用して情報を集めて整理したり、分析したり、まとめる学習をすることができましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が85%以上】であったが、全学年を通して92%以上の肯定的な回答があった。</p>	
思考・判断・表現	B	<p>同じく学びのポイント、とくに「クラウドでつながる」に重点を置き、相互に高め合うこと意識した授業を全校を挙げて行うとともに、ディスカッション等話し合いの場を多く設けた。今年度は【R7年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が85%以上】を目標としたが、全学年を通して94%以上の肯定的な回答があった。一方、表現の領域は向上したが、思考・判断の部分で全教科課題が見えた。</p>	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	<p>R7年度全国学力・学習状況調査では全国平均を上回った。ただし、国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」において、文脈に即した漢字の使い方については他の問題形式より平均点が低く、全国平均並みであった。数学においては、「連続する三の倍数の和が9の倍数になること」の説明を完成させる問題が他の問題形式よりも平均点が低かった。小テストなどを通して、読解力や計算力の向上を図る。テスト後の生活に関するアンケートにおいて、主体的・対話的で深い学びの項目が比較的低い状況にあるとともに、「わからないことがあったときに自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」という項目において全国平均より低い数値が出ているため、学校活動全体を通じ、改善を図る。</p>	
思考・判断・表現	<p>R7年度全国学力・学習状況調査では全国平均を上回った。ただし、細かく見てみると、国語では、記述式の「発表のまとめの内容を分かりやすく伝える」問題においては比較的正答率が低かった。数学においては、「四角形が平行四辺形になる証明」問題が比較的正確率が高かった。授業において、「なぜそのような答えになるのか」と、思考の過程を可視化できる学習活動を取り入れていく。テスト後の生活に関するアンケートにおいて、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」という項目が県平均と比べ低い状況にあるので、学校活動全体を通じ、改善を図る。</p>	

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	<p>R7年度全教科における「知識・技能」分野において、さいたま市平均を上回った。また、思考・判断・表現の観点と比較すると、知識・技能の方が高い傾向がある。基礎的な知識の定着が図られている一方、情報や考えをまとめる、表現する部分において伸びしろがある。各教科、正答率が低く、苦手としている項目の例として、以下が挙がる。 国語:文語の決まりを理解しているかどうかをみる問題 数学:相対度数、中央値、最頻値の意味や役割の理解を図る問題 社会:近世における産業や交通の発達、東アジアとの関わりを読み取る問題 理科:示準化石や、鉱物の見え方の理解を図る問題</p>	
思考・判断・表現	<p>R7年度全教科における「思考・判断・表現」分野において、国語以外のすべての教科がさいたま市平均を上回った。正しい感じを選択する問題等での正答率が高い一方、登場人物の言動に注目して作品を読み、そこから内容を的確に読み取る問題等、思考・判断を求める問題に課題がある。各教科、正答率が低く、苦手としている項目の例として、以下が挙がる。 国語:感想や情報、データから、根拠となる適切な情報を抜き取る問題 数学:投影図から考えられる立体を判断する問題 社会:文献資料を活用して、中世の日本を大観し、時代の特色や変化の様子を考察する問題 理科:グラフから正しい情報を読み取る問題、および肺の働きと肺静脈の働きを判断する問題</p>	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	良好	変更なし
思考・判断・表現	B	良好	変更なし